

I 総論

I 総論

1. 教育理念と目標

獣医学部の教育理念は、高い倫理観と豊かな人間性を備え、国内外の獣医学・獣医療における指導的立場に立てる科学実践者としての獣医師・獣医学士を育成して獣医学・獣医療に対する世界と国内社会の要請に応え、これを通して人類社会と地球環境の健康・健全化に貢献することである。この理念を実現するために、国際水準の実践的な教育を行うとともに、動物の病気の診断・治療・予防に加え、安全な動物性食品の供給、医薬品開発、基礎生命科学、野生動物の保護・管理と人獣共通感染症の制圧など、多様な分野で自ら問題を見出し解決に導く科学的思考力と判断力を獲得できる人材の育成を目標とする。

2. 沿革

明治 9年 8月14日	札幌学校開校	【本学創基】
9年 9月 8日	札幌学校を札幌農学校と改称	
40年 9月 1日	札幌農学校を東北帝国大学農科大学と改称	
40年 6月24日	畜産学科設置	
43年 3月26日	獣医学講座	【講座設置】
44年 5月 2日	獣医学第二講座（獣医学講座を獣医学第一講座に改称）	
45年 6月25日	家畜病院規程制定	
大正 2年 6月30日	畜産学科を畜産学科第一部，同第二部に分離	
7年 4月 1日	北海道帝国大学設置 東北帝国大学農科大学を北海道帝国大学農科大学と改称	
8年 4月 1日	北海道帝国大学農科大学を北海道帝国大学農学部と改称	
9年 9月14日	家畜衛生学講座	
11年 5月15日	比較病理学講座	
昭和 19年12月19日	家畜解剖学講座	
21年 4月 1日	畜産学科第一部，同第二部を畜産学科に改称	
22年10月 1日	北海道帝国大学は北海道大学となる	
24年 4月 1日	獣医学科設置	【学科設置】
24年 5月31日	（新制）北海道大学設置（国立学校設置法公布）	
25年 4月 1日	家畜生理学講座	
27年 4月 1日	獣医学部設置（獣医学科） 家畜内科学（獣医学第一），家畜外科学（獣医学第二） 家畜衛生学，比較病理学，家畜解剖学，家畜生理学 獣医公衆衛生学講座 の7講座設置	【学部設置】

28年 4月 1日	北海道大学大学院獣医学研究科設置 家畜生化学講座 家畜伝染病学講座
28年 5月13日	獣医学研究科に予防治療学専攻，形態機能学専攻設置
28年 8月 1日	附属家畜病院設置（国立学校設置法の一部改正）
29年 4月 1日	家畜薬理学講座 家畜臨床繁殖学講座
30年 7月 1日	家畜寄生虫病学講座
39年 4月 1日	講座学科目省令（昭和39文部省令3号）（12講座）
44年 5月21日	獣医放射線学講座
59年 4月 1日	学校教育法の一部改正により獣医学部の修業年限は6年となる
61年 4月 1日	実験動物学講座
平成 2年 4月 1日	大学院設置基準の一部改正により獣医学研究科の修士課程は 廃止され，博士課程の修業年限が4年となる
2年 6月 8日	毒性学講座
7年 4月 1日	大学院重点化による改組 ・獣医学部（獣医学科：4学科目） ○生物医科学 ○病因病態学 ○応用獣医学 ○臨床獣医学 ・大学院獣医学研究科（獣医学専攻：4大講座） ○比較形態機能学講座 ○動物疾病制御学講座 ○診断治療学講座 ○環境獣医科学講座 臨床分子生物学教室，生態学教室を設置
13年 4月 1日	家畜病院は大学院獣医学研究科附属となる
15年 4月 1日	大学院獣医学研究科にプリオン病学講座新設
18年 4月 1日	大学院獣医学研究科に人獣共通感染症学講座（協力講座）新設
19年 4月 1日	附属家畜病院を附属動物病院に改称
20年 4月 1日	先端獣医療学教室を設置
21年 5月 1日	獣医教育改革室を設置
22年 4月 1日	プリオン学講座は，応用獣医科学講座・獣医衛生学教室と改称
22年 7月 1日	生態学教室は，野生動物学教室と改称
23年 4月 1日	国際獣医学教育支援室を設置
24年 4月 1日	北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程を 開始
25年 5月20日	附属動物病院（動物医療センター）の新築・開院
26年 4月 1日	診断治療学講座（寄附講座）設置（平成28年3月31日まで）

3. 組織体制

学部に共同獣医学課程を置き，課程に分野を置いている。
 分野は学部を兼務する獣医学研究科教員が担当する。

学部に，学部長を置き，本学部の教授をもって充てている。
 学部に，評議員 1 名を置き，本学部の教授をもって充てている。

(平成 26 年 4 月 1 日現在)

課程・分野		英 名	担当教室	
共同 獣医 学課 程	基礎獣医学	Basic Veterinary Sciences	解剖学教室	生理学教室
			生化学教室	薬理学教室
			※実験動物学教室	※放射線学教室
	病態獣医学	Pathobiological Veterinary Sciences	※微生物学教室	※感染症学教室
			寄生虫学教室	※実験動物学教室
			※放射線学教室	※野生動物学教室
			※獣医衛生学教室	
	応用獣医学	Applied Veterinary Sciences	公衆衛生学教室	※放射線学教室
			毒性学教室	※野生動物学教室
			※微生物学教室	※感染症学教室
			※獣医衛生学教室	
	臨床獣医学	Veterinary Clinical Medicine	獣医内科学教室	獣医外科学教室
			比較病理学教室	繁殖学教室
			臨床分子生物学教室	先端獣医療学教室

注) ※印の教室は複数の分野を担当する教室を示す。

4. 組織改革と将来構想

獣医学部では，教育上の必要に応じて，適宜，組織改革を行っている。平成 22 年度～平成 25 年度の期間には，主に学部教育の国際水準化，臨床教育の強化，学生の国際的視野の涵養，教員の教育力強化等を目標に，以下の改革を実践した。

(1) 北大・帯畜大共同獣医学課程の設置

北海道大学獣医学部と帯広畜産大学畜産学部，双方の特徴と強みを補完し，国際水準の獣医学教育を実現することを目標に，平成 24 年度に北大・帯畜大共同獣医学課程を設置し，両大学 1 学年各 40 名，計 80 名の学生を両大学の教員で教育する体制を整えた。共同獣医学課程には両大学代表者から構成する協議会を置き，カリキュラムの編成や成績判定等の重要事項を審議するとともに，月 1 回の定例懇談会をテレビ会議で開催し，常に教務関連情報等の共有化を図っている。また，これら教務関連事項の具体，詳細は，両大学の代表者で構成する共同教務委員会で検討のうえ，協議会での審議に付している。さらに，各校のファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会が協力して少なくとも

年に1回の合同FD研修を開催し、共同課程の運営や教育の国際水準化に向けて情報を共有し、意識を高める工夫を行っている。

(2) 教員の拡充

北大・帯畜大共同獣医学課程は、山口大学・鹿児島大学共同獣医学部とともに「平成24年度国立大学改革強化推進補助事業：国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築（平成24年度～平成29年度）」に採択された。これを原資に、平成25年度に特任教授1名、特任助教6名を採用し、特に臨床系教育の強化に取り組んでいる。

このほか、平成23年度と平成24年度に、北海道大学のF3プロジェクトと全学運用教員制度により助教各1名を附属動物病院に採用し、臨床系教育の充実に充てている。

(3) 獣医学教育の国際水準化に関する現状と構想

上記「国立大学改革強化推進補助事業」により、北大・帯畜大共同獣医学課程では、欧州獣医学教育施設協会（EAEVE）からの教育認証取得を短期的指標とした取組を推進している。平成25年にはEAEVE総会等にてEAEVE認証の実際の手順や対象項目等に関する情報収集を行うとともに、平成26年度にEAEVE関係者による事前予備診断（現地視察）を実施するための交渉を行った。異なる評価者による事前予備診断を重ね、その指摘に基づく改善を随時行って、平成30年に公式の事前診断を実施、平成32年に認証（Approval）の申請を行う予定である。また、4大学間での自学自習教育コンテンツの共有に向け、獣医学教育改革室を中心に、e-ラーニング教材／セルフラーニング教材の作成と利用にも取り組んでいる。

なお、平成26年10月と11月、帯広畜産大学とともにEAEVE前会長Dr. Fodor (Szent Istvan 大学, ハンガリー)とEAEVE副会長Dr. Braun (München 大学, ドイツ)を招いて事前予備診断を実施し、その評価結果に基づいて、臨床ポリクリニク科目時間数の増加を中心とした短期的対応に取り組んでいる。

(4) 北大・帯畜大共同獣医学課程の進化と深化に向けた構想

共同獣医学課程はヒューマン・インタラクティブな教育を基本方針としており、相互提供科目は教員が札幌-帯広間を移動して集約的な授業を実施している。結果として実際上の4学期制となっていることの是非はさておき、これが過度になれば学修効果の低下や教員の疲弊につながる容易に想像できる。また、全学教育を含めた両大学の教育資源の有効活用の面からも疑問が生じる（「学部Ⅱ教育」の項参照）。平成24年度から平成26年度までの実施状況を鑑みるに、両大学の特徴と強みを活かし、この共同獣医学課程の趣旨を効果的に完遂するためには、学生の札幌-帯広間年次移動を主軸とした抜本的な改変が不可欠である。今後、この基本方針に基づいてカリキュラムや授業内容の見直しを行うとともに、全学教育等との協調、さらには80名クラスの教育に必要となる施設の整備を図る予定である。

5. 中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 獣医学部の教育理念を維持し深化させる</p> <p>多様な獣医学の社会的使命を理解し、高い動物生命倫理観と科学的な学士力および国際的視野を備えた、創造性と人間性豊かな獣医師を養成する。</p>	<p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 獣医学の社会的使命を理解し高い動物生命倫理観を培うため、学部導入教育の内容を充実させる。</p> <p>(2) 科学的・論理的な学士力を備えた、創造性と人間性豊かな獣医師を養成するため、チュートリアル教育の充実に努め、問題解決能力および客観的臨床技能を付与する。</p> <p>(3) 国際的視野を備えた獣医師を養成するため、英語演習を実施する。</p> <p>(4) 幅広い学士力を教授するため、他大学との教育連携を深める。</p>
<p>(2) 入学者選抜に関し「獣医学を担う能力」を有する人材を選考する</p> <p>*「獣医学を担う能力」とは、①動物を愛するとともに、動物を科学的視点から客観的に観察することができる、②生命現象に対して、畏敬の気持ちと科学的な探究心をもつことができる、③獣医学を通じて社会的、国際的に貢献できる能力を言う。</p>	<p>(1) 入学希望者の一部に対し面接試験を実施し、「獣医学を担う能力」の有無を判断する。</p> <p>(2) 入学希望者の一部に対し「大きく入り入試」を導入する。</p>
<p>(3) 充実した獣医学教育の実施体制を高める</p>	<p>(1) 講義室・演習室の充実を図る。</p> <p>(2) 国際的な基準を満たした動物実験実習室や動物実験施設の整備・維持に努める。</p> <p>(3) 獣医学FD委員会を設置し、定期的にFDを実施する。</p> <p>(4) 獣医師国家試験の高い合格率を維持するため、自学自習の可能な教育コンテンツを作製する。</p>
<p>2. 社会貢献・その他に関する目標</p> <p>(1) 地域社会・国際社会に貢献する</p> <p>獣医学部における教育のレベルアップと、北海道地域に特徴的な産業・学術、動物疾病・感染症、環境保全への対応強化に努め、地域社会と国際社会に貢献する体制と環境の整備を進める。</p>	<p>2. 社会貢献・その他に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 学内連携、北海道内大学間の連携、ならびに大学-学外獣医師間連携による北海道獣医学相互補完体制を構築し、学部における実践的教育支援体制を強化して、より優秀な獣医師の育成に努める。</p>
<p>(2) 附属動物病院組織を強化する</p>	<p>(1) 北海道地域獣医療の中核拠点となるべく、</p>

<p>地域社会に高度，先進的な獣医療と獣医療情報を提供し，北海道の中核総合動物病院として動物と健全に共存する地域社会作りに貢献する。さらに，優れた臨床教育・臨床研究の実践をとおして，地域社会と国際社会の両者に通用する優秀な獣医師の育成に努める。</p>	<p>専門性や高度獣医療技術を備えたスタッフ及び診断機器の充実を図る。</p> <p>(2) 地域獣医師，獣医師会，他大学動物病院等との連携を図り，ウェブサイト内容を充実させ，診療の地域内協力体制強化に努める。</p>
--	---